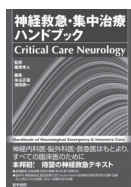


神経救急・集中治療ハンドブック

Critical Care Neurology



監修：篠原 幸人
編集：永山 正雄，濱田 潤一

A5 頁496 2006年
定価 5,775 円(本体 5,500 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-00132-8] 医学書院刊

本書の著者に神経内科医，脳神経外科医が多いことは想像に余りあるが，救急・蘇生科医が全65名中に12名が含まれている。救急・集中治療という表題にしては意外に少ない。しかし，日本救急医学会(第34回学術集会)を見ると脳蘇生，脳卒中についてのシンポジウムが各1セッションあり，脳低温療法の講演が2セッション，一般演題は5セッションと活発である。この事実からみれば，本書には神経内科・脳神経外科と救急・集中治療科の2つの世界の癒合を促そうとする編者の意図が窺える。さらに穿ったことをいえば，救急・集中治療医に神経系を専門とする医師を育成すべきとのメッセージが含まれているのかもしれない。「監修の序」には，「critical care neurologyの導入と体系化」が本書編纂の目的と述べてあり，「編者あとがき」には，「わが国には，神経系疾患全般に対して対応できる高度の施設はまだ非常に乏しい」現状への挑戦が窺える。

本書の体裁はA5判，496頁と病棟や診察室など狭いテーブルに置かれることを意識したサイズである。その意味では，いわゆる教科書と実用書の中間に属するものと理解できる。

本書の特徴は，5章，56項目と内容が豊富なことである。第1章には編者の基本的な考え方が述べられており，本書への熱い思いが伝わってくる。これに続いて，第2章は症候，第3章は疾患，第4章は合併症，第5章は管理と構成されている。本書の魅力は，豊富な内容に加えて各項目が実用的に構成されていることである。特に，第2，3章では管理とコンサルテーションすべき科目が示されており，第4，5章では具体的な全身的管理が示されている。

記述は，何れも簡潔，明瞭であり，神経救急・集中治療に携わる臨床医は，たとえ研修医であっても基本的知識として本書のレベルは把握しておくことが望まれる。さらに，救急医療の現場に専従する医師は，本書の内容をしっかりと習得し，加えて，外傷性中枢神経障害，脊椎・脊髄損傷，小児神経救急疾患，妊娠に伴う神経系疾患，そして中枢神経疾患に関わる救急蘇生ガイドラインなどについて学習することが望まれる。

本書は，神経救急・集中治療に携わる初期研修医，後期研修医に必読の書であり，救急・集中治療医にも座右の書として，強く推奨したい一冊である。